

海外安全対策情報（令和元年10月～12月期）

1 社会・治安情勢

（1）反政府デモ活動等

昨年1月の大統領就任以降、政治情勢については一定の安定化がみられますが、当国が抱える深刻な貧困問題の解決には長期間を要すると思われ、引き続き注意が必要です。

（2）治安情勢等

今期も引き続きマダガスカル各地において、武装強盗団等による店舗、住居等への襲撃事件が多発するとともに、主に夜間の国道上において、複数の路上武装強盗団による道路の封鎖や待ち伏せ襲撃により、タクシールース（長距離乗り合いミニバス）や車両が襲撃される事案が発生しています。また、特にインド・パキスタン系富裕層をターゲットとした誘拐事件も発生していますので、引き続き注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）一般犯罪は引き続き高い発生率で推移しており、カラシニコフ自動小銃、手榴弾、密造銃器、手製爆弾等で武装した武装強盗団による押し入り強盗事件が多発しています。

（2）邦人の被害

観光客の多い首都アンタナナリボ市内の独立大通り、アナラケリー・マーケット及び独立広場へと続く場所では、スリ、ひったくり、集団強盗等が多発しています。今期、イソラカ地区で日本人観光客が被害者になる事案やタクシール乗車中の窃盗事案が報告されていますので、十分に注意してください。

また、過去には夜間に複数の警察官が検問と称して邦人観光客の取り調べを行い、パスポートの不携帯、予防接種の不備等を口実に、不当に金銭を要求、支払うまで執拗に要求を繰り返してきたという事案が当館に報告されています。たとえ要求額が少額であっても毅然とした態度で断ることが重要ですが、逆に金銭の支払いを拒み続けることで状況が悪化し、危険な状況に陥るケースもあり得ますので、状況に応じて臨機応変に対応する必要があります。夜間に少人数で行動することは避けるなど十分に注意して行動してください。

（3）邦人以外の被害事案

スリ、ひったくり、武装強盗等の一般犯罪は依然として多発しています。また、当地では以前から一部のマダガスカル人富裕層及びインド・パキスタン系などの実業家（フランス国籍者を含む）が財を成していると目されてきており、これら富裕外国人らを標的とした武装強盗、身代金目的の誘拐事件等が引き続き発生しています。更に、中国人が被害者となった凶悪事件や殺人事件も時折発生しており、犯罪者の目から日本人と中国人とは見分けが付きにくいこともあることから、十分な注意が必要です。なお、今期は韓国人がアンブイバオ地区の自宅周辺で被害に遭う事案が報告されております。

3 テロ・爆弾事件発生状況

当地では、イスラム過激派等のテロ組織の存在や明確な活動等はこれまで確認されていません。

ただし、当地がイスラム過激派等テロ組織の潜伏地または経由地になっている可能性があるとの情報もあります。

特に大規模なイベントや多くの人々が集まる場所を訪れる際は、十分に注意して行動するとともに、人混みには不用意に近づかないようにしてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

主にマダガスカル人富裕層及びインド・パキスタン系富裕層をターゲットとした誘拐事件が頻発しており、今期は20件（前年同期比19件の減少）の誘拐事件が発生しています。

(1) 邦人被害事案

近年邦人が標的となった誘拐・脅迫事件は発生していません。当地では一般的にマダガスカル国民の対日感情は良好であり、日本人が特定の標的となる背景はありません。ただし、貧困問題を背景に金銭目当ての犯罪が多く発生しており、常に身辺に対する注意を怠らないようにする必要があります。

(2) 邦人以外の被害事案

当地における誘拐事件の被害者は、主にマダガスカル人富裕層、インド・パキスタン系実業家（フランス国籍者を含む）で、身代金の支払い要求に応じて人質が解放されるケースがほとんどです。

5 ダハロ「牛強盗団」による犯罪多発地域

南部の Andranovory (アンドラノボリ：首都中心部より南南西約600km) から Ampanihy (アンパニ) に至る国道10号線、IHOSY (イフシ) から Ambovombe (アンブヴォンベ) に至る国道13号線付近は、ダハロによる襲撃事案が多発している地域です。特に、夜間は上記国道の通行は控えてください。また、北部の Maevatanana (マエバタナナ) や西部の Tsiroanomandidy (ツィルノマンディディ) においてもダハロに関する事案が発生しています。

6 航空機を利用する際の注意点

(1) 国内線

マダガスカルの国内線にて、預け入れ荷物を開けられ、現金、貴金属類等の貴重品を抜き盗られる被害が過去に報告されています。鍵を掛けていても、何らかの手段によって鍵を開け、中身を窃取後に元どおりの状態に戻しているため、被害に気が付くのが遅れ、被害届を出しても十分な対応が行われないことがあります。貴重品を預け入れ荷物の中に入れていないなどの注意が必要です。

(2) イバト国際空港

今期、邦人からの被害の情報はありませんでしたが、過去には、空港内セキュリティカウンター、空港建物内において空港職員等から邦人渡航者が不当に

金銭を要求された事案が報告されています。また、過去には荷物検査と称して荷物の中から金品を窃盗するなどの事案も発生していますので、荷物検査を受ける際は手荷物や検査員等から決して目を離さないよう注意するとともに、荷物検査が所持人の目の前で実施されない場合は、強く抗議する等の対応が必要です。

また、不当な金銭の要求については、たとえ要求額が少額であっても毅然とした態度で断ることが重要ですが、逆に金銭の支払いを拒み続けることで状況が悪化し、危険な状況に陥るケースもあり得ますので、状況に応じて臨機応変に対応する必要があります。

7 日本企業の安全に関わる諸問題

従前より、一般的にマダガスカル国民の対日感情は良好と言われており、日本企業の安全に関して特段問題となる事案は見られません。（了）